

平成26年度

千葉市教育研究会

教育相談部会 授業研究会

市教研 統一研究主題

自ら学び心豊かに生きる力を身につけた児童生徒の育成

教育相談部会 研究主題

一人一人が豊かな心で主体的・意欲的に
学校生活を送るための教育相談的かかわり
～一人一人を理解し、支援するためのよりよい手立てを求めて～

期 日 平成26年10月21日（火）

会 場 千葉市立さつきが丘東小学校

展開学級 第2学年1組

授業者 梅澤 文則

題材名 「友だちのことをたくさんたくさん知ろう」
～構成的グループエンカウンター「すごろくトーキング」を活用して～

【授業展開】	14:00～14:45	2年1組
【研究協議会】	15:00～16:30	図書室

第2学年1組 学級活動指導案

千葉市立さつきが丘東小学校

2年1組 梅澤 文則

1 題材名 友だちのことをたくさんたくさん知ろう

～構成的グループエンカウンター「すごろくトーキング」を活用して～

2 題材設定の理由

人間は社会の中で、他者とコミュニケーションを取りながら生活をしていく。そして、相手の気持ちを受け入れながら、自分の気持ちを伝えることでお互いを理解し、よりよい人間関係を形成していく。しかし、近年、他者とコミュニケーションを取るのが苦手な人が増えていると言われている。他者とコミュニケーションをとる力は、幼少期から養っていく必要があると考える。他者との様々なかかわりを繰り返す中で蓄積され身につけていく力である。

児童が学校において主にかかわりをもつ他者は、友達、教師である。友達とのコミュニケーションを良好にとることで学校生活が充実したものとなる。良好なコミュニケーションをとるためには、良好な人間関係を築けなければならない。良好な人間関係を築くためには、友達のことを知ったり、自分のことを相手に伝えて理解してもらったりすることから始めなくてはならないだろう。

2年生の後期が始まるという段階で、本学級の児童は友達というものを意識し始めてきた。友達とかかわる楽しさや友達が助けてくれるありがたさを感じ、それを言葉や態度で表すようになってきている。3年生になると自分と他人との違いを認識し始める時期になるため、お互いの違いを受け入れ、よりよい関係を築けるようにしていくことが必要だと考える。そこで、よりよい人間関係の構築をめざすために本題材を設定した。

「すごろくトーキング」は、さいころをふりながら自分の駒を進めるという楽しさがある。偶然性により、次に何が出るのか期待しながら意欲的に活動できるだろう。ルールが簡単であるため学習の流れも理解しやすい。誰もが経験したことがある「すごろく」形式なので、児童全員が安心して取り組めると考える。また、マスの中に話すテーマを設けることで、友達のことをたくさん知ることができると同時に、自分のことを友達に伝えることができる。友達のことを知ったり、自分のことを伝えたりすることで、子どもたちの相互理解を深めることができると考える。

3 児童の実態（個人情報にかかわるため一部省略）

本学級は、2年生が始まった4月に2名が転入、6月に1名が転入してきているが、ほとんどが1年生から同じメンバーである。担任として、今年度4月から受け持つようになった。

本学級には、明るく素直で元気な子が多い。当番や係り活動、手伝いなどを進んで行う児童も多い。また、様々な学習や行事を通して成長している。学校探検や入学を歓迎する会などの1年生との交流では、自分の役割を明確に持つことにより、上級生として接する意識も高まってきた。

5月から、ソーシャルスキルトレーニングや構成的グループエンカウンターなどを児童の実態に合わせて計画的・意図的に取り入れている。教室の中でもお互いを認める言葉や称賛する言葉などが多く聞こえるようになってきた。当番活動を手伝ったり、困っている児童に声をかけたりする姿も見

られる。

そこで、本題材を通して、さらにお互いの理解を深め、認め合える関係を作っていきたいと考える。その第一歩として、「すごろくトーキング」を行うことでお互いの理解をさらに深めていきたい。

4 研究主題との関連

一人一人が豊かな心で主体的・意欲的に学校生活を送るための教育相談的かかわり
～一人一人を理解し、支援するためのよりよい手だてを求めて～

(1) 1年間を通じた計画的な取り組み

Q-U（学級満足度調査）（※以後「Q-U」と明記）や児童の日常観察の結果から児童の実態の把握に努めた。居心地がよく安心して生活できる学級になることは、一人一人の児童の願いである。そのためには、友達とかかわるためのコミュニケーション力やお互いを受け入れる気持ちなどが必要になってくる。それらを身に付けさせるために、年間を通して、計画的・意図的に構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニング、自己表現トレーニングを取り入れていきたい。

構成的グループエンカウンターのエクササイズには、自己理解、他者理解、自己受容、自己主張、信頼体験、感受性の促進の6つの特質がある。これらの特質を踏まえ、児童の実態に合わせて実践することで、相互理解を深め、よりよい人間関係を築くことができると考える。お互いが理解して、認め合うことで、一人一人が主体的・意欲的に学校生活を送ることができるだろう。

月	エクササイズ名	活動の内容	活動のねらい
五月 (道徳)	ニコニコさんとチクチクさん（自己表現トレーニング）	うれしくなる言葉や態度、悲しくなる言葉や態度について話し合う。	友達を思いやる言葉や態度について知り、生活の中でも活用するように意識する。
五月 (朝の時間)	はい、どうぞ。 (ソーシャルスキルトレーニング)	プリントを渡す時に前の人が「はい、どうぞ。」と言って渡し、もらった人は「ありがとう。」と言って受け取る。	ニコニコさんで学んだことを実践できるように相手を思いやった言葉を活用する。
六月 (学活)	すきすきランド (自己表現トレーニング)	テーマについて自分の好きなものについて伝えたり、友達の好きなものを知る。	お互いの好きなものを知ること で相互理解を深める。
七月 (学活)	班会議 (他者理解、自己主張)	教師が10円玉、50円玉、100円玉のうち1枚を選んで手に持ち、何をもっているか班で相談して当てる。	自分の考えを伝えたり、友達の考えを受け入れたりすることができる。

七月 (体育)	サッカーじゃんけん (他者理解)	サッカーチームに見立ててポジションを決め、攻撃チームは、相手と次々にじゃんけんをして、キーパーに勝つと1点となる。	たくさんの友達とじゃんけんをしながら交流をする。友達と協力して活動する楽しさを味わう。
九月 (学活)	さいころトーキング (他者理解)	さいころの出た目ごとにテーマが決まっている。さいころを振り、出た目について話をする。	テーマについて話をする事で友達によさや考えを知る。
十月 (学活)	ぴったんこゲーム (自己理解・他者理解)	テーマについての答えがグループで同じになるように考える。	友達がどのように考えるかを想像しながら、他者を思いやる気持ちを養う。

(2) 一人一人を理解するための手立て

①学級満足度調査 (Q-U) による児童の実態の把握

一人一人が主体的・意欲的に学校生活を送るためには、現状をしっかりと把握することが大切である。そこで、5月と9月に児童の実態を把握するために学級満足度調査 (Q-U) を行った。5月に実施した結果に比べ、9月に実施した調査では、満足群に集まるという結果から、よい方向に向かっていると言える。

数値による客観的な実態の把握と、教師の子どもたちを観察することによる主観的な実態の把握を合わせることで、幅広く実態を捉えることができると考えた。その結果から、一人一人に応じた計画的な支援を行いながら、同時に学級の集団としての力を高めていく必要があると思われる。

※個人情報にかかわるため、Q-Uのプロットは協議会にて示した。

②系統的な支援

特別な配慮を要する児童には、系統的な支援を行う必要がある。現状把握がしっかりできていないと、誤った見立て (アセスメント) をして、方針がそれてしまう可能性がある。現状把握をしっかりと行って、それを多面的な見立てを行うことで、その児童のつまずきに合った方針が立てられるだろう。その方針にそって実践したことを振り返りながら、よりよい支援を講じていくことが大切である。特別な配慮を要する児童については、以下のような系統的な支援を考える。特に現状把握から方針までを重視していきたい。

※個人情報にかかわるため、協議会で資料を配布し、終了後回収した。

○現状把握 《観察しとらえる》

- ・児童の学級での様子を詳しく観察し、捉える。
- ・児童の性格や友人関係の様子を詳しく観察し、幅広くとらえる。

○見立て 《分析する》

- ・現状を分析して、問題の所在を考える。

○方針 《ゴールを設定する》

- ・「見立て」を基にして、個と学級集団に対しての今後の指導方針を立てる。
- ・短期的方針と中・長期的方針を立てる。
- ・チームでの連携を図るため、方針を共有化する。

○実践 《迷わず実行する》

- ・「方針」を基に様々な教育活動の時間を通して実践していく。

○振り返り 《変容を見る》

- ・振り返りを生かし、方針を立てなおしたり、現状把握を再度行う。

また、特別な配慮を要する児童と周りの友達の関係もとても重要である。お互いを受け入れられる学級集団を作っていくことで一人一人が安心して生活できるようになると考える。個と集団の両方が高まるように支援をしていくよう心がけていきたい。

(3) すぐろくトーキングについて

①すぐろくトーキングの実践方法やテーマ

すぐろくとは、先にゴールをした人の勝ちとなるゲームである。しかし、勝敗にこだわってしまうと友達の話の話を聞いたり、自分の考えを伝えたりするという本時のねらいから離れてしまうことが考えられる。そこで、「スタート」と「ゴール」のマスがないすぐろくに於いて、子どもたちは好きなマスに駒を置いて始めるものとする。本時のねらいを十分に伝え、友達の話の話を聞いたり、自分の考えを伝えたりすることの大切さに目を向けさせたい。

テーマは自分の好きなものや子どもたちが身近に感じていること、校外学習など共通して体験していることを主に取り上げていきたい。そうすることで、話がより広まったり、深まったりすると考える。

グループの中には話すことが苦手な児童もいる。そこで、テーマが書いていない「空きマス」を適度に設けたい。「空きマス」に止まった時は、話をしなくてもよいので、安心して取り組むことができる。また、児童によって話しにくいテーマもあるだろう。そこで、パスを3回までできることを伝え、安心して学習に取り組めるようにしていきたい。児童の活動の様子を見て、必要に応じパスの回数は、増やしてもよいことを個別に話していきたい。

②活動の形態やグループ編成の工夫

落ち着いて学習に取り組むために椅子に座り、机を使ってすぐろくトーキングを行ってほしい。また、友達が話をしているときに、さいころが気になって触ってしまうことがあるだろう。さいころを触っている間は、友達の話の話を十分に聞くことができない。そこで、さいころを使ったら、容器に入れ

て、次の人が振るまで触らないようにさせていきたい。

すごろくのマスには、相互理解を深めることができるように幅広いテーマを設けていく。自分と同じ考えだったら親近感がわき、違う考えでもそれを受け入れることでお互いの理解を深められるものとする。グループは生活班の4～5人で行う。座席は、児童の実態を考慮して、毎回、教師が決めている。生活班も人間関係などを考慮した構成メンバーになっている。この「すごろくトークン」を通して、グループの仲がさらに深まってほしいと考える。

③話し方・聞き方のルール

本時は、「友達のことを知り、自分のことを伝えることでお互いの理解を深め、認め合う気持ちを育てること」をねらいとしている。そのため、話し方・聞き方のマナーについて確認し、それを意識しながら学習を進めるように声をかけていきたい。

【話し方のルール】

- 友だちの方を見て話す
- 声の大きさや速さを考えて話す
- 順序を考えて話す
- さいごまでしっかりと話す

【聞き方のルール】

- 友だちの方を見て聞く
- 大事なことを落とさず聞く
- うなずきながら聞く
 - ・ いいね
 - ・ うんうん
 - ・ そうなんだ
 - ・ よかったね
- さいごまでしっかりと聞く

5 本時の活動

(1) 本時のねらい

友達のことを知り、自分のことを伝えることでお互いの理解を深め、認め合う気持ちを育てる。

(2) 展開

過程	学習活動と内容	ねらいにせまる手立て	子どもの姿（評価）
導入	<p>1 ウォーミングアップをする。 ・「班会議」を行う。</p> <p>2 すごろくトーキングのねらい やり方を知る。</p>	<p>○グループで話し合いながら心をほぐし、和やかな雰囲気を作る。</p> <p>○エクササイズのねらいを明確にし、活動の内容をつかませる。</p>	<p>○友達の考えを受け入れ、自分の考えを伝えている。</p>
<p>友だちのことをたくさんたくさん知ろう</p>			
<p>今日は、「友だちのことをたくさんたくさん知ろう」ということをめあてに学習を行います。なぜ、「たくさんたくさん」と2回くりかえしているのでしょうか。それは、グループの友達の話をしっかり聞いて、友達のことをもっともっと知ってほしいからです。そのために、「すごろくトーキング」というゲームを行います。さいころを振って、止まったマステーマについて止まった人が話をします。その理由も忘れずに言いましょう。話を聞く人は、「うんうん。」や「へえ。」などしっかり反応をして聞くようにしましょう。何か質問があったら言ってあげましょう。友達もうれしいと思います。みんなの質問が終わったら、次の人がさいころを振って駒を進めます。話しにくいこともあるかもしれないのでパスは3回まで認めます。</p> <p>このすごろくには、スタートとゴールがありません。自分の好きなところに駒を置いて始めましょう。今日は、順番や勝ち負けを決めるのではなく、友達のことを知ってほしいからです。勝ち負けはないから、安心して、落ち着いて、たくさんのお話をグループでしていきましょう。</p>			
展開	<p>3 デモンストレーションをする。 ・さいころを振ったら、「好きな食べ物」のマスに止まったと想定して教師が話す。</p>	<p>○話し方や話す順序がわかりやすいように教師が手本を示す。</p> <p>○話し方・聞き方のルールについて伝える。</p>	
<p>さいころを振ったら、「好きな食べ物」というテーマのマスに止まったとします。まず、先生がやってみます。</p> <p>「私の好きな食べ物は、ラーメンです。理由は、先生の生まれたところではラーメンが有名で子どものころからずっと食べているからです。質問はありますか。」</p> <p>必ず、最後に「質問はありますか。」と聞きましょう。聞いていた人はできるだけ質問をしてあげると友達のことをさらによく知ることができるので、頑張って質問しましょう。</p>			

展 開	4 すごろくトーキングをする。		
	<p>それでは、すごろくトーキングを始めます。友だちの話をよく聞きましょう。この学習が終わった時に、友だちのことがたくさんたくさんわかっていたらいいですね。</p>		
ま と め	<p><テーマ例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・好きな食べ物 ・好きな教科 ・今日の朝ごはん ・大きくなったらなりたいもの ・最近、家の人にほめられたこと ・町たんけんで見つけたこと ・2年1組のいいところ 	<ul style="list-style-type: none"> ○何を話すか考え込まず、気軽に話をするよう促す。 ○「何を質問しようか。」と考えながら友達の話聞くように促す。 ○質問をして交流を深めているグループを称賛する。 ○話すことが苦手な児童にはパスを3回してもよいことを再度伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達の話に相槌を打ちながら聞こうとしている。 ○自分のことを詳しく伝えようとしている。
	5 すごろくトーキングをして感じたことをワークシートに書く。	○ワークシートに振り返りを書くことで、自分の感じたことを整理させる。	
	6 シェアリングをする。 ・各グループで感想を発表し合う。	○一緒に活動したグループで感想を伝え合うことで、さらに友達の考えを知る。	○エクササイズを行った感想を友達に伝えている。
<p>今日のすごろくトーキングはどうでしたか。友だちのことをたくさんたくさん知ることができましたか。感想をみんなの前で発表してもらいます。</p>			
	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス全体の場で、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の感想と友達の感想の似ているところや違うところに気をつけて聞くよう促す。 ・これからの生活でも友達のことをたくさん知って人間関係を深めていくことを確認する。 	

友だちのことをたくさんたくさん知ろう ワークシート

名前 ()

1 友だちの話をたくさん聞けましたか。(○でかこみましょう)

よく聞けた



まあまあ聞けた



あまり聞けなかった



聞けなかった



2 自分の話をたくさんつたえることができましたか。

たくさんつたえられた



まあまあつたえられた



あまりつたえられなかった



つたえられなかった



3 友だちのことで新しく知ったことはありましたか。

たくさんあった



まあまああった



あまりなかった



なかった



4 きょうの学しゅうは楽しかったですか。

とても楽しかった



まあ楽しかった



あまり楽しくなかった



楽しくなかった



◎そう思ったわけを書きましょう。

 きのう、家に帰ってからしたこと	町たんけんではっけんしたこと 	右にすわっている友だちに、かつまでじゃんけんする 	キッズダムでたのしかったこと 	すきな歌 	ながてな食べもの 
友だちに言われてうれしかった言ば 					
すきな食べもの 					いまほしいもの 
わたしのたからもの 					1年生のペアのかわいいところ 
2年1組のいいところ 		パンとごはんどっちがすき 	これからがんばりたいこと 	前にすわっている友だちのいいところ 	すきな色 
					
すきな教科 			梅瀬先生のいいところ 	海へいっかがすき 	2年生になつてからたのしかったこと 
 グループのみんなとあくしゅをする					大きくなつたらなりたいもの 
 今日の朝ごはん		 ひし近、夢の人に呼められたこと	 おかすおきな給地の		ドラえもんの道ぐと一つだけつかえるとしたら 

【聞き方のルール】

- 友だちの方を見て聞く
- 大事なことを落とさず聞く
- うなずきながら聞く
- ・いいね
- ・うんうん
- ・そうなんだ
- ・おかったね

○さいごまでしっかりと聞く

【話し方のルール】

- 友だちの方を見て話す
- 声の大きさやはやさを考えて話す
- じゅんじょを考えて話す
- さいごまでしっかりと話す